

船舶事故調査報告書

平成25年1月24日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵男（部会長）
 委員 庄司 邦昭
 委員 根本 美奈

事故種類	転覆
発生日時	平成24年4月10日 11時00分ごろ
発生場所	佐賀県佐賀市 ^{ひろえ} 広江漁港南方沖 佐賀市所在の広江港口灯台から真方位194°7,200m付近 （概位 北緯33°06.2′ 東経130°15.5′）
事故調査の経過	平成24年4月11日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 ^{てんざん} 天山、4.6トン SA3-16563（漁船登録番号）、個人所有 13.23m×2.55m×0.91m、FRP ディーゼル機関、321kW（動力漁船登録票による）、平成3年7月23日
乗組員等に関する情報	船長 男性 55歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和51年1月30日 免許証交付日 平成21年5月19日 （平成26年8月31日まで有効）
死傷者等	軽傷 1人（船長）
損傷	全損（転覆）
事故の経過	<p>本船は、船長ほか甲板員2人が乗り組み、広江漁港南東方沖の海苔養殖場で海苔養殖用支柱（以下「支柱」という。）の撤去作業を終え、平成24年4月10日10時40分ごろ広江漁港に向けて帰途についた。</p> <p>本船には、長さ12mの支柱60本が左舷に、長さ11mの支柱約290本が船のバランスを考慮して両舷にそれぞれ積まれていた。</p> <p>本船は、海苔養殖場の作業区画を発進後、約8ノットの対地速力で北西進し、広江漁港南方沖から同漁港に向かう水路に入ろうとして右転を開始したところ、船体が左舷に大きく傾き、船体中央左舷甲板に設けられた排水口から海水が流入して傾きが戻らず、11時00分ごろ船首が水路に向いたときに転覆した。</p> <p>船長は、転覆した本船の船内に閉じ込められ、甲板員2人は、海に</p>

	<p>転落した。</p> <p>甲板員2人は、船底に上がっていたところ、後続の僚船に救助され、船長は、通報を受けて出動した海上保安庁の機動救難士に救助され、病院に搬送されて低体温症等と診断された。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 東、風速 約3m/s、視界 良好</p> <p>海象：海上 平穏</p>
その他の事項	<p>支柱は、右舷船首に取り付けられた電動ローラーを使って引き抜かれ、引き抜く際、船体が右舷に傾くことから、本船の左舷から積まなくてはならないため、本事故当時、本船に積んだ支柱の数量は左舷が30～40本多く、船体も少し左舷に傾いていた。</p> <p>積んだ支柱は、両舷に置かれたガードの中に納められ、バンドで更に固定されていた。</p> <p>支柱は、グラスファイバー製であり、重量が、長さ12m直径50mmの物が約12kg、長さ11m直径50mmの物が約11kg、長さ11m直径46mmの物が約9.8kgであった。</p> <p>本船は、本事故当時、船体中央の甲板両舷に設けられた長さ約14cm高さ約3cmの排水口から海水が出入りしていた。</p> <p>支柱は、船首甲板船首側から一段高くなった船尾甲板に向かって斜めに積まれ、船尾後方の操舵室両舷には、排水口から約150cmの高さまで積み上げられ、支柱先端の約1～2mが船尾から出ていた。</p> <p>本事故当日は、支柱撤去作業の初日であり、長い支柱から撤去作業を始めていた。</p> <p>船長は、8日間の撤去作業期間内に2,310本の支柱を撤去する予定であり、例年、荒天や経費のことを考慮し、期間の初めは支柱の数をできるだけ多く積むようにしていた。</p> <p>甲板員2人は、それぞれ船首甲板と船尾甲板にいた。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、広江漁港南方沖を同漁港に向けて航行中、支柱を左舷に偏って積んでいたことから、乾舷が減少して重心が上昇するとともに、左舷に傾斜していたが、右転した際、左舷に傾斜し、左舷排水口から海水が流入して排水されず、左舷側に転覆したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、広江漁港南方沖を同漁港に向けて航行中、支柱を左舷に偏って積んでいたため、右転した際、船体が左舷に傾き、左舷排水口から海水が流入して排水されず、左舷側に転覆したことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p>

	<ul style="list-style-type: none">・ 支柱を積んで航行する場合、適切な数量とし、船体が傾斜しないように積むこと。
--	---